

陸平通信

OKADAIRA 2012 年 1 月 1 日発行
編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359
美浦村文化財センター（陸平研究所）
☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471
E メール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

第Ⅱ期 69号

第 14 回縄文の森コンサート

“新春シャンソンコンサート”

Vocal : 西原 良子 / Piano : 山本 光

恒例となった、縄文の森コンサート。

今回は、西原良子さんの素敵なシャンソンと楽しいトークをお楽しみください。

予定曲 愛の讃歌 / 恋の友だち 他



西原 良子（にしはら りょうこ）プロフィール

宮城県生まれ。20 才でシャンソン歌手としてデビュー。その後、中野サンプラザをはじめ東京を中心にコンサートを開催。現在は、つくば市でシャンソン教室を開きながら、各地でライブをおこなっている。東京芸術大学の有馬泉氏に師事。

山本 光（やまもと ひかる）プロフィール

茨城県取手松陽高校音楽科卒業

東京芸術大学別科出身

小さい頃から独学でピアノを学ぶ。高校 1 年生の時にピティナ・ピアノ演奏検定で G 級合格。高校 3 年生の時に全国高校総合体育大会ファンファーレ作曲部門で佳作に入選。現在クラシック、ジャズを中心に共演を重ねる。

◆日 時 1 月 22 日（日） 午後 1 時 30 分開場 午後 2 時開演

◆会 場 美浦村文化財センター

◆申込不要 入場無料

◆主 催 陸平をヨイショする会 / 後援 美浦村教育委員会

※問合せ：美浦村文化財センター



午後 1 時からロビーにて
コーヒーショップ開店♪

文化財センターつるかごづくり体験講座生募集

陸平の歴史や自然の中で、つるを使ってかごを作ってみませんか？

日 時：2 月 17 日（金） 午前 10 時から正午

場 所：文化財センター

参 加 費：500 円

講 師：陸平をヨイショする会

申込方法：文化財センターへ電話にて連絡ください。

申込期間：1 月 11 日～2 月 10 日（月曜は休館）

定 員：10 名（先着順） 問合せ・連絡先 文化財センター（Tel 886-0291）



陸平貝塚の貝を調べる

～住民参加による 平成二十二年陸平貝塚
確認調査の整理作業から～

陸平の謎に
せまろうと
皆頑張っ
ています！

平成二十二年夏に、住民参加で行われた陸平貝塚の確認調査の成果をまとめるために、現地での発掘調査が終了した直後から、月に数回、参加した住民の方々に集まっていたら、掘りだされた土器などの遺物や、サンプルとして取り上げた貝塚の貝や土を、専門の先生方の指導もつけながら分析しています。その中でも、現時点で貝の分析作業がほぼ終了しましたので、その作業内容や成果について報告します。

まず、今回採取した貝塚のサンプルは、D貝塚西部の縄文時代後期中頃のもので、陸平貝塚で得られているサンプル資料の中では、一番新しい時期のものになります。サンプルとして採取した貝はふるいにかけ、土を取り除いたあと整理分析作業に入ります。



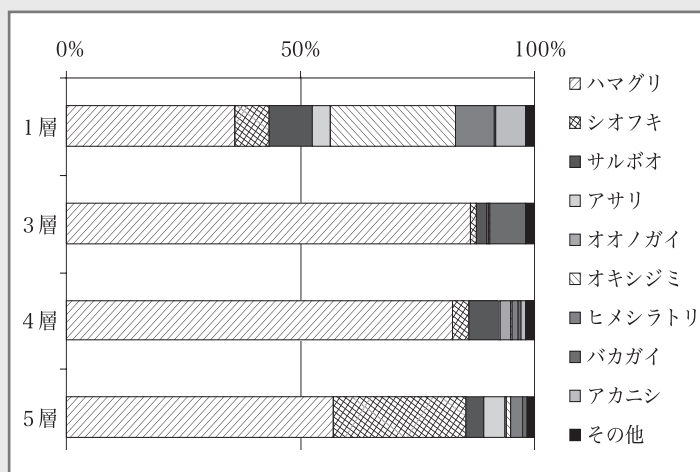
貝を種類別に分けています。
シオフキとバカガイの区別
はおまかせ！



貝合わせ 大きさと
貝の柄がポイント！



貝の大きさを測っています



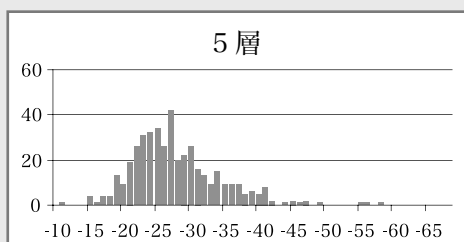
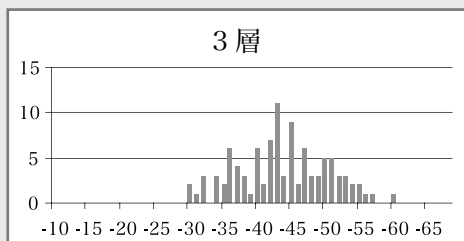
層による貝の種類の違い

貝塚は、縄文人が貝を食べた後、貝殻を捨てたものなので、貝殻が層をなして堆積しています。つまり下の層ほど古く、上ほど新しくなります。今回のサンプルでは、ハマグリを主体に、そのほとんどが海の干潟で採れる種類の貝でした。当時、陸平貝塚のすぐ近くまで、海の入江であった霞ヶ浦が入り込んでいました。また、一番上の1層では、大型の巻貝のアカニシが集中してみられた他、ヒメシラトリという一般には貝塚ではあまり出土しない貝がまとまって残されていました。1層のすぐ下からは、火を焚いた跡である炉の跡が見つかっており、何かおまつり的なことが行われたのかも知れません。

貝を分類する

次に貝の大きさを測りました。対象にしたのは、どの層から多く出土したハマグリ（殻長といいます）です。その結果、層によって主体となる大きさが違うことが分かりました。これは干潟の環境が時期によって変化していたこと、もしくは度重なる採取によって、ハマグリが大きさが小さいものしかなかった時期があることを示します。そういう時期にはサルボオやシオフキなど他の貝でおぎなっていたようです。

貝の大きさを測る

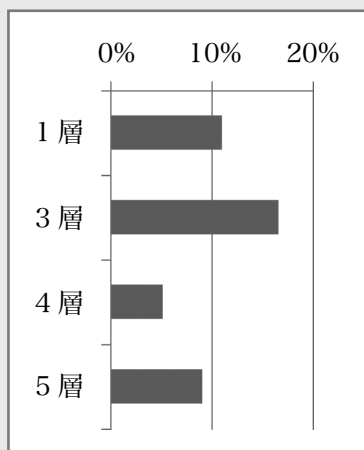


ハマグリ大きさ (縦：個数 横：mm)

貝合わせ

最後に、新たな試みとして、二枚貝の貝合わせを行いました。もともと合わさっていた二枚貝はピッタリと合います。今回、貝塚を発掘している中で、貝が合わさったまま、かたまつて出土する層と、そうではなく貝殻がジャラジャラと崩れてしまいう層がみられたことから、確認することにしました。

結果は、まず全体に合う貝の割合が思ったより少ないことにビックリしました。合う貝殻が多いということは、貝殻がバラバラにならない内、つまり採って中身を食べた、まとまりごとに捨てられていた状況、または左右の貝がくっついたまま捨てられていた状況が想像されます。逆にほとんど合わない場合には、違う時に採って食べていた貝殻と一緒に混ざって捨てられていた状況が考えられます。また、捨てられた後に、貝塚が崩れたりして、もともと違う時に捨てられた貝殻と混ざってしまったているのかもしれませんが、また、1層のオキシジミやヒメシラトリは合わさる率が高く、やはり特異な状況を示していました。



ハマガリの対になる率

※グラフはいずれも暫定値で、正式報告の際には、多少変更があるかもしれません。

分析指導にあたって

陸平貝塚保存活用検討委員会調査指導委員
早稲田大学 樋泉 岳二

私は陸平貝塚から出土した貝や動物骨を分析して、当時の自然環境や人びとの食生活、狩猟や漁業の様子などを推定する研究をしています。実際の作業としては、まず貝塚の地層の一部をサンプルとして採集し、フルイがけして、中に含まれる貝殻や骨を抜き出し、種類別に分ける作業を行います。参加していただいた皆さんには、この作業を手伝っていただきました。

地味で根気のいる作業ですが、皆とても熱心に取り組んでくれました。とくに印象深かったのは、皆さんがただ言われたとおりのことをやるのではなく、自分で考えながらレベルアップしていこうという意欲を強く持っていることでした。たとえば、形がよく似ていて見分けるのが難しい貝も、ほぼ完璧に見分けられるようになりました（すごいです!）。また、陸平貝塚では4000年前ころからウナギの骨の出土量が激増するのですが、この骨がとても小さいため（米粒～ゴマ粒くらいの大きさです）、サンプルの中から拾い出すのはとても大変で、私一人ではとうていできません。この作業を皆さんに頑張ってもらったおかげで、ようやく正確なデータを出すことができました。ウナギのいる場所や捕りかたなどは地元の方のほうがよくご存じですから、これからは皆さんの知恵も借りながら、一緒に陸平のウナギ漁の実態を明らかにしていきたいと考えています。

貝塚から出土する貝や骨を調べると、何千年も前の自然環境や人びとの暮らしがリアルに甦ってきます。その楽しさを体験してもらえれば、陸平貝塚が膨大な情報を秘めた遺跡であることを実感してもらえるでしょう。それは単なる遺跡の研究にとどまらず、郷土の成り立ちや昔の暮らしを知り、現在と未来を考えていくための手がかりを与えてくれるものだと思います。これから多くの方々に陸平貝塚に来て、見て、さわって、その秘めた可能性を体感していただきたいと願っています。



美浦村の地名5

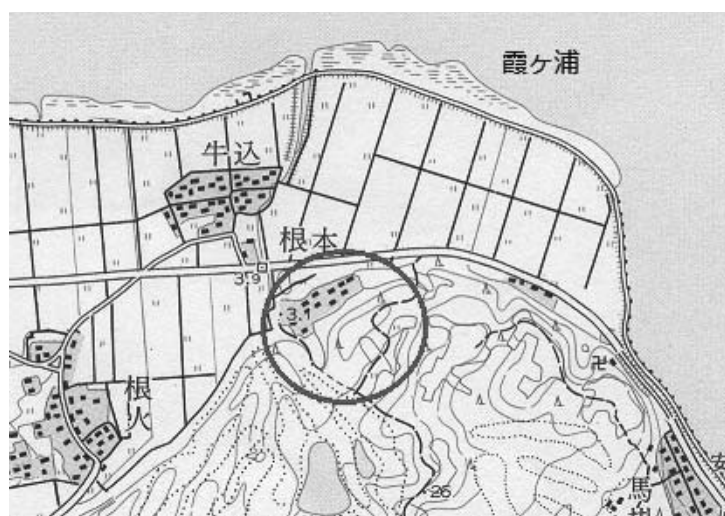
根本地区

根本地区は西に根火、北の霞ヶ浦側に牛込、東に馬掛と三つの地区に囲まれ、南は陸平貝塚のある通称安中台地が隣接しています。江戸時代は根本村というひとつの村で、かつて養泉寺という曹洞宗のお寺もありました。

「根本」という名称は台地の下を意味していると思われる。集落と集落のすぐ後ろの高台付近一帯には「表口」という小字がみられます。表には、正面、日光が良く当たる山の南面、海や川・道路に面した所などいくつかの意味があります。高台では弥生時代～平安時代の住居の跡や古墳時代の墓（方形周溝墓・円墳）、中世城郭に関する施設などの跡が見つっています。

集落の前（霞ヶ浦側）には道路との間に田んぼがありますが、その辺りには「下口」という小字名がみられます。下は低い場所という意味のようです。「表口」「下口」の両方にみられる「口」は出入り口を示していると考えられます。

周辺地区に飛び地として谷津、蔵後、元山、池下といった小字名が見られます。谷津は低湿地、蔵後や池下という小字はかつてあった蔵後池付近にあります。



文化財センター展示室 休室のお知らせ

展示替えのため、2月28日から3月4日まで休室とさせていただきます。次回は谷底から沢山の縄文土器片が見つかった、陣屋敷低湿地遺跡を紹介いたします。お楽しみに。

文化財センターでは古文書や昔の写真など村の記録を受け入れています。お気軽にお問い合わせ下さい。

陸平縄文太鼓保存会からお知らせ

打ち手募集 中学生～50歳位までの元気な方！（男女を問いません）



＊私たちと一緒に太鼓を叩きませんか！

問い合わせ 陸平文化財センター内 Tel 029-886-0291
ファックス 029-886-0471